

第4回 伊山 修氏



- 講演者: 伊山 修氏 (東京大学)
 - 題目: 団代数と傾理論
 - 日時: 2022年 7月 6日 (Wed) 16:30 ~ 17:30
 - 場所: 東京理科大学野田キャンパス講義棟K503教室 および zoom 中継

本セミナーは、東京理科大学研究推進機構総合研究院「先端的代数学融合研究部門」との共催です。

講義棟で対面での参加をご希望の学外のかたは、講演前日までに、青木
[aoki_hiroki@ma.noda.tus.ac.jp]あてに、お名前・ご所属を、ご連絡ください。感染症対策にご協力願います。

zoom中継視聴による遠隔での参加をご希望のかたは、講演前日までに、青木
[aoki_hiroki@ma.noda.tus.ac.jp]あてに、お名前・ご所属[zoom登録名（お名前と違う場合）]をお知らせください。折り返し、zoom中継のアドレスをお伝えいたします。

（講演当日でも可能な限り対処いたしますが、間に合わなかった場合にはご容赦ください。）

[seminar, 2022, new](#)

abstract

今世紀初頭に導入された団代数 (cluster algebra) は、帰納的に定義される団変数と呼ばれるローラン多項式で生成される可換環であり、与えられた簀(quiver) から新しい簀を構成する変異(mutation)と呼ばれる組み合わせ論的操作を用いて定められる。一方、環の加群圏の同値を扱う森田理論の拡張である傾理論(tilting theory)は、環の導来圏の同値を扱うものであり、簀の表現に対する鏡映関手の理論的基礎付けを与えるものである。傾理論では準傾対象(silting object)と呼ばれる対象が重要であり、与えられた準傾対象から新しい準傾対象を構成する変異(mutation)と呼ばれる圏論的操作が存在する。団代数の圏化(categorification)は、傾理論を用いて団代数を調べるものであり、異なる文脈に現れた変異の間の直接的な関係を説明する。本講演では以上の事柄を例を挙げつつ説明する。

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2022/04?rev=1656946040>

Last update: 2022/07/04 23:47

